

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈12月12日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第9回、徳之島の昔話「霜月師走のカメさん」です。

昔々、あるところに二人の兄弟が住んでいました。兄は村一番のお金持ちでしたが、弟は貧しく、年老いた母を養いながら暮らしていました。

ある年の十二月二十九日のことでした。弟の家にはとうとう食べる米が無くなってしまったので、兄の家に米を借りに行くことになりました。ところが、欲の深い兄は弟に米を貸すどころか、弟の貧しい暮らしをさんざん馬鹿にした挙げ句、^あ「お前のような貧しい人間に貸す米は一粒も無い。」と言って、弟を追い返してしまいました。

しかし、以前から母親は「こういう困った時もあるだろう」と考えていたので、普段からの食事を節約して、毎日三粒ずつの米をひそかに^{たくわ}貯えていました。母はその貯えておいた米を炊いて息子にご飯を食べさせました。米をたくさん食べた弟は元気が出たので、海に漁へ出かけることにしました。

弟が海辺に行くと、大晦日^{おおみそか}を前に、漁をする人は誰もいませんでした。何の獲物^{えもの}も獲ることができず、海辺を歩き疲れた弟は、砂浜へと上がってきました。すると、白い砂の上で一匹の小さなカメが、大きな声で何かしきりに^{しゃべ}喋っていました。弟は、これは不思議なこともあるものだと思い、カメに近付きました。弟がカメの言葉をよく聞いてみると、カメは、「霜月師走のカメが、この家に行って、あの家に行って、本家^{ほんけ}への土産^{みやげ}、土産！」と言っています。カメの言葉につられて弟も思わず、「霜月師走のカメが喋ったよ、喋ったよ！」と叫びました。すると、カメはさらに人間の言葉を喋るのでした。驚いた弟は、カメを家に連れて帰り、床の間で大切に飼うことにしました。

しばらくして、「言葉を喋るカメ」の噂^{うわさ}を聞きつけた村の人たちが、新年早々、弟の家にたくさん詰めかけました。そして珍しいものを見た見物料として、幾らかずつのお金や食べ物を置いていきました。おかげで弟と母は、村の人たちと楽しい正月を過ごすことができました。

やがてこの不思議な話を聞いた欲深い兄が、さっそく弟の家を訪ねてきました。そして、「これは世にも不思議で面白いカメもいるものだ。」と言うなり、少しのお金と引き替えに、弟が大事にしていたカメを無理矢理に連れて行ってしまいました。

村一番のお金持ちで、欲深い兄は、「さあ、これで忙しくなるぞ！」と大声で使用人たちにどなり散らし、あれこれと指図^{さしず}しました。兄は高い見物料を勝手に決め、よ

その村にまで、「言葉を喋るカメ」のことを宣伝させました。

ところが、島^{しまじゅう}中から多くの見物客が集まり、いざとなってもカメは一言^{ひとこと}も喋りませんでした。その結果、兄は島中の人たちから「大嘘^{おおうそ}つき」と呼ばれ、相手にされなくなりました。そして怒った兄は、とうとうカメを殺してしまいました。

弟は、カメが兄から殺されたことを知り、カメの亡骸^{なきがら}を兄の家から持ち帰り、自分の家の庭に手厚く葬^{ほうむ}ってあげました。

それから数日後、不思議なことに、カメの亡骸^うを埋めた場所から、竹の芽が出てきました。ぐんぐん伸びてきた芽はたちまち若竹^{わかだけ}になり、若竹はみるみるうちに大きく生長しました。やがて弟の家は立派な竹で一杯になりました。

ある日、弟は竹で箸^{はし}を作ろうと思い、一本の竹を切ってみました。すると、竹の一節^{ひとふし}を切る度に、中から米や金がざくざくと出てきたのです。たちまち弟は、村一番のお金持ちになりました。

米や金が出てくる竹の話を知った、強欲^{ごうよく}で意地悪な兄は、自分がしたカメへのひどい仕打ちも忘れて、何度も何度も弟の所から竹を盗んでいきました。しかし、盗んだ竹を兄が何度切っても、中からはごみしか出てきませんでした。そのうちに、村一番のお金持ちだった兄の家は、次第に落ちぶれて、貧しくなっていきました。逆に弟の家は、ますますお金持ちになっていつまでも栄えたということです。

さてみなさん、今回のお話しはどうでしたか。「言葉を喋るカメ」と言えば、「浦島太郎」や「ウサギとカメ」などが思い浮かびますね。昔からカメは縁起物^{えんぎもの}として親しまれてきましたし、今でも子どもたちに大人気な存在です。ただ、年の瀬^{せま}も迫った寂しい海^{さび}辺で、大声で喋る一匹のカメがいる…と想像すると、何だか少し不気味な感じもしますが、結果的にこのカメは弟に幸せをもたらしてくれました。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。